

別記様式

議 事 録

会議の名称	岩倉市地域福祉計画推進委員会
開催日時	平成 29 年 11 月 1 日（水）午後 3 時から午後 4 時 30 分まで
開催場所	市役所 7 階 第 1 委員会室
出席者 (欠席委員・説明者)	野口委員長、河村副委員長、山田委員、馬路委員、浅田委員、関戸誠委員、関戸八郎委員、山口委員、尾関委員 欠席委員：小笠原委員 説明者：健康福祉部長、福祉課長、福祉課統括主査、主任 岩倉市社会福祉協議会主任、主事補 日本福祉大学野口研究室 野口定久
会議の議題	第 2 期岩倉市地域福祉計画の策定について ア 策定状況の報告（スケジュール） イ いわくら福祉市民会議の報告 ウ 住民活動計画について
議事録の作成方法	<input type="checkbox"/> 要点筆記 <input checked="" type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> その他
記載内容の確認方法	<input type="checkbox"/> 会議の委員長の確認を得ている <input checked="" type="checkbox"/> 出席した委員全員の確認を得ている <input type="checkbox"/> その他（ ）
会議に提出された資料の名称	・（資料 1）第 1 回議事録 ・（資料 2）第 2 期岩倉市地域福祉計画策定方法及びスケジュール ・（資料 3）第 2 期計画策定に向けた「いわくら福祉市民会議」のこれまでの取組 ・（資料 4）住民活動計画について ・（資料 5）住民活動計画・地域課題集約 ・（資料 6）住民活動計画・グループワークまとめ（10 月 8 日実施分） ・（参考資料）
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開
傍聴者数	0 人
その他の事項	

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

1 あいさつ

野口委員長よりあいさつがされた。

2 議事

議題（1）

第1回推進委員会の議事録が了承された。

議題（2）

ア策定状況の報告（スケジュール）について、第2期計画の策定に係る平成29年度の策定状況と今後の予定について資料2により事務局により説明がされた。

委員長：第2期計画は、地域福祉を進めていくということは全市的な課題もあるが、具体的に住民が住みよい地域を作ることから活動を組み立てていくため、小学校区で住民の活動を活発化させようという方向性でいる。国から9月25日に地域共生社会についての最終答申が出た。社会福祉のあり方が、行政・社協・住民が一体となって社会を作っていく。その場合、行政の縦割りではなく、障害のある方もない方も全世代的に地域全体で暮らしていくにはどういう社会にしていけばいいのかという基本方針だ。岩倉市の計画はそれに沿った形で動いていると思う。第2期計画策定のスケジュールが今後詰まっている。形にしていきたい。

イ いわくら福祉市民会議の報告、ウ住民活動計画について、資料3～6及び参考資料により野口定久氏より報告がされた。

委員長：質問があれば伺う。

馬路：1月に行われる第3回市民会議が期待される。第1期計画を実行してきた部会メンバーの意見としては、当初掲げた市民計画のうち全部取り上げられていないので、第2期計画に課題を引き継ぎたいということ、リーダー会議でも申し上げたし、市民会議でも意見している。第1期計画の課題を第2期計画の課題としてどうやって集約していくのか。そもそも集約するのが良いのか悪いのか。

また、地域密着という意味では、地域で掲げた課題は地域で取り組んでいくことは方向性としては正しいと思うが、地域で温度差が出るのではないかと。それをどう捉え評価し協調していくかが心配だ。

委員長：第1期計画の積み残しが心残りであり、第2期計画にどう載せるか、あるいは切るか決断しないといけないということだった。ただ、これまでの市民会議での意見と重複しているところもあるので整理が必要だ。

また、小学校区ごとの推進は地域密着で実現性は高いだろうが、それぞれの温度差や進行方向に差ができたときにどうするのが課題ということだった。付け加えると6

月以降の市民会議で出た地域にほしい活動への意見に対して、既に市の事業として対応できているものもあったが、資料では除いた。また、既に市の事業として実施しているが、住民が知らなかったり不十分と感じていたりというアクセス上の課題も残されている。また、5つの大項目も、今後取り組んでいくうえでの妥当性でまとめてあり、この分類が適切か、必ずしもこれに縛られてはいない。

浅田：この委員会は、第2期計画の策定委員会でもあるという理解でよいか。国では丸ごと相談室を実施するという方向性ということだが、第2期計画において、市もすぐには難しくても作りたいということか。

委員長：市民会議のグループワークでも、そこかしこに相談相手や場所が分からないという声があった。相談内容も行政の制度に合致すればよいが、合致していなかったり、複合的だったりという課題に国も気づいてきた。市内でもそうした声をいただいているので方向性を出した。

浅田：方向性を出すことと、具体的に実施していく、どちらも出すということか。

委員長：そうだ。地域で生活や健康上の悩み・困りごとがあった時にどこに集約されるのか。そこから吸い上げたものをどうバックアップしていくのかというところが、行政の支援計画として入ってくる。

浅田：実際に個人情報への壁があって難しいと聞いた。国のいう丸ごと相談体制を既に実施している自治体はあるのか。

野口：県内にもある。ワンストップや丸ごと相談体制は、国より先に始めているところもある。

浅田：岩倉市ではまだできていないのか。

委員長：行政規模の問題もある。岩倉市の場合、課が違っても何となく連携ができていた側面もあると思うが、市民からするとたらい回しと感ずることもあつただろう。また、相談は自ら問題を整理し、申請という形式で声を発しないと行政は捉えてくれない。高齢者が家に閉じこもってしまい住民との接点もなかった場合どうすればよいか。住民のおせっかいというのもどうか。課題は山積している。

浅田：行政区に関していえば、協働推進課に行けば全て繋いでくれる体制になっている。

委員長：徐々にそういう体系にできないかということだ。

河村：小学校区単位での取組について、区域が狭くなるから対象者の対応がしやすくなるメリットはある。ただし、横並びで開始するとばらつきが出てくる。結果を見ながら、良い方をモデルタイプとして、余所も同様に組みめるように、将来的にセッティングしてはどうか。そうすれば数年後に進んでいくのではないか。

委員長：どこにセッティングするかは難しいが、学区ごとの連絡会があつて、情報や連絡調整をしながら、全市的に提議していくというのもあつた方がよいのではないか。

馬路：第1期計画ではリーダー会議があつた。ただ、部会ごとにテーマも別れていたため、調整する必要はなかった。むしろ困りごとを聞く感じで、テーマを越えて行動はしてこなかった。第2期計画では、温度差やひずみも出てくるのが想定されるので、評

価して、いいものを取り入れる情報交換の場所があるとうまくいくかもしれない。

委員長：それが第4部の推進実行計画といえる。推進の進行管理をする。それを拡大していくことが必要だろう。

尾関：それぞれの地区でやることになると優先順位が違ってくる。地区による凸凹はやむを得ない。それぞれ集まってどうするかという話し合いは必要だ。凸凹が地区の特色、共通と個別になる。

委員長：資料5、6は、学区ごとに出てきた意見をシャッフルしている。今まで全市でしていたが、地区でしてみると学校ごとに色合いが出る。それはそれで一つの方向性である。

関戸誠：もう少し情報がほしい。資料3は第2期計画のための会議であるが、少数意見も乗っかると收拾がつかない。他のみんながそう思っていることも拾わないといけない。

委員長：アンケート調査を昨年度実施した。それが土台にあるが、数字での裏付けがあるわけではない。

関戸誠：地区でまとめたものが出てくるとよかった。

委員長：第3回市民会議の際に、参加者にもう一度見ていただき優先順位つけるよう働きかける。資料にある課題の全部はとてできない。第1期計画は欲張った。

馬路：第1期計画は地区懇談会やグループワークで出てきた課題を全て盛り込み、部会で取り組もうとした。私が所属する交通安全・防災システム部会も、課題が大きく地域福祉を突き詰めると生活の安全確保において、いかに防災が大切か分かってきたが、少ないメンバーでどう地域に広げるのかを検討した時に、限界があるをつくづく感じた。よって自分たちが取り組めるところを順につぶしてきた。5年実施してきたが、まだ未実施項目があるのは残念だ。第2期計画で取り上げてもらいたいので、市民会議では意見している。第1期計画では、4部会それぞれテーマを持って全市を対象にどうあるべきか動いた。区長や教育委員会、校長会など、地域や行政の機関と連携し、行動に反映していくか検討したが、なかなかできなかった。積み残しは第2期計画にお願いしたいが、地域に根差した行動が必要なので、小学校区単位として取り上げられたのなら、既に5つの行動体ができあがっていると思えば、期待は大きいので実現してほしい。

委員長：庁内連携については、先月に連絡調整会議ができたという報告があった。連絡調整会議のメンバーがこれらの課題を拾い切れるかは分からないが、少なくとも行政内では、ネットワーク、手掛かりができそうだ。いずれ地域福祉の支援推進会議となっていくと横が繋がってくる気がする。

山口：資料6は、小学校区単位で抽出された課題ということだが、行政に頼らなくてもできることが多々ある。狭い範囲で解決できることばかりだ。でもそれをどうしていいかわからない。思うに、地域の課題を解決するのは地域なので、それぞれの連携や話し合う場を作り、どう進めていくかをやっていけばよい。うまくいかなくても余所を参考にできる。そのうえで、地域でできないことを社協と行政が仕組みを作って支援す

るとよいのではと思う。

委員長：自ら一步を踏み出せる人は良いかもしれないが、地域ではそうした雰囲気すら難しくなりつつある状況もあるのではと拝察した。本来、近隣でフランクな関係が築けていたらいろんなことができるかもしれないが、なかなかそうではない。

山口：環境作りが必要だ。部会など個別なものを僕らが考えるのではない。地域ごとに自分たちで作ることが必要ではないか。

委員長：将来、小学校区ごとにいわくら福祉市民会議があり、定例会が持てるようになるとよい。

山口：また、できれば行政が予算をつけて課題解決のために使ってもらえるような仕組みがあるとよいのではないか。

関戸誠：地域での会議に出られない人もいる。ふれ愛まつりや既存のまつりなどに出やすいようにし、その中で福祉について語り合っていないといけない。毎回出てくる人の顔ぶれは一緒だ。ただし、その人が地域の意見を集約しているわけではない。

委員長：伝統的地縁組織が参考資料で提示されたが、この部類におまつりや人が集まる場所を含んでいる。

山田：第1期計画では部会ごとにテーマを決めてやってきたが、テーマから離れた実績でもそれが会議の実績であれば結果として良かったと思う。健康づくりからかたるた作成になった。仲間と福祉活動をやってこられたのはよかった。第2期計画は小学校区であるが、丁度良い範囲だと思う。町内ではいつもの顔だが、全市では大き過ぎて分からない。小学校区は当初は分からなくても行ってみれば納得できる。ゆるやかなつながりができるのが小学校区だと思うので、第2期計画に期待している。ただ、2月に地区懇談会がスタートしているので、現在グループワークの場にいる区長は前年度の区長であり、現区長ではない。3月に任期終了した区長のうち不参加の人もいるのが残念だ。区長は自主防災会のリーダーであるので現役区長も出ていただけると話が繋がるのではないか。

事務局：昨年度の地区懇談会は当時の区長に参加をお願いした。今後の課題と認識している。

関戸八：第1期計画は、いいことばかりが書かれているが、一度精査をする必要がある。そのうえで課題を見ていかないといけない。絵に描いた餅にならないように、どう現実を見据えた岩倉市独自のものにしていくか。あくまで計画なので現実を見据えるのは難しいかもしれないが、精査してやってほしい。

委員長：リーダー会議でもこれまでのことを整理しようとしている。社協が事業の進捗状況を見てくれているので、それと今回出てきた意見の突合せの作業をしておきたい。今日の議題は、策定に係る市民会議の報告と住民活動計画の素案を議論した。今後、事務局とともに作業を進めていきたい。

野口：今日の意見を第2期計画において具体的にしていきたい。論文では岩倉市のものにならないので、作業を通じてできる限り住民にとって良い計画にしていきたい。資料4にこれからの作業が書いてある。計画書のイメージとして、大項目があり、第1部か

ら第3部まで住民活動計画と社協と行政の支援計画を一つの課題ごとにそれぞれすり合わせる作業をしていこうと思う。その作業ができれば全国的にも例はない。従来の縦割りでやっていたのを、具体的な事業・制度で横につないでいくと、丸ごと相談の必要性が自然と出てくるのではないか。行政が縦割りから横割りにしないといけないといわれるが、行政は基本としては縦割りで、そこで責任を持たないといけない。そこを横割りにする必要はなく、制度やサービスを横割りにしていけばよい。住民が相談するところを一か所にして、具体的な制度やサービスで応えることができるようにしていきたい。それが横割りだと思っている。

関戸八：横割りというとオールマイティという感覚しかないが、現実にはそうではない。縦割りは基本であり、そのうえで横割りの運営をしていかないと民間企業は成り立たないし、行政もそれをしていけば日本一の市になるかもしれない。

野口：何とか資料4の形を全市的に見れるようにしていきたい。住民もやることをやったうえで、行政に意見を言えるようにする。行政は各部署で連絡を取り合い、どうしたら住民に必要なサービスを提供することができるだろうかということを議論していただきたい。小学校区で住民ができることを考え、それを社協や行政で支援するというネットワークと信頼関係をこの計画で作っていきたい。

委員長：第2期計画の構想を具体的に出されたので、またここで議論を進めていきたい。

委員長：他に無ければ、会議を終了する。

事務局：次回は12月に開催予定。